

## 株式会社 JMC、国内最大規模の CT スキャンサービス提供に向けて 設備を追加導入

最先端の3Dプリンター事業と、伝統的鑄造事業を展開している株式会社 JMC（本社：神奈川県横浜市港北区新横浜、URL：<http://www.jmc-rp.co.jp/>、代表取締役社長・渡邊大知）は、2016年4月より第3世代CT装置『phoenix nanotom m（フェニックス ナノトム エム）』を追加導入します。

樹脂やセラミック、炭素繊維を撮影対象とする『phoenix nanotom m（フェニックス ナノトム エム）』に対する需要の拡大に応える為、2015年6月に続き同機を追加で導入致します。これにより、『phoenix v|tome|x c（フェニックス ヴィトム エックスシー）』を加えた3台体制となり、スピードと品質の両方を備えた国内で最大規模のCTスキャンサービスを提供すべく、サービス体制の強化をしております。



### 導入設備概要

#### ■ CT スキャナとは

X線を使って製品を撮影することで、内部状態を非破壊的に観察することができる装置です。製品内部にある欠陥の検出や製品形状の3Dデータ化など、多彩な利用が可能です。

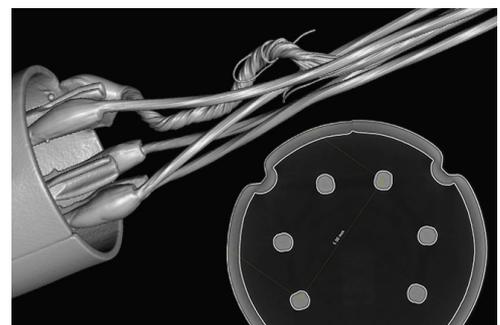
#### ■CT スキャナによる検査・測定事例

##### 事例1) コネクタの内部検査

20mm程度のコネクタ内部の断線を分解せずに検出しました。

また微細な形状を高精度で取得できる特徴を活かし、ピン端子間の距離を測定することも可能です。

【使用装置：phoenix nanotom m】



事例2) 複数の部品が組み合わさった製品のスキャン  
 複雑に組み合わさった製品を、内部形状も含め一括でスキャンします。取得した3Dデータは、データ上でパーツごとに分解することも可能です。

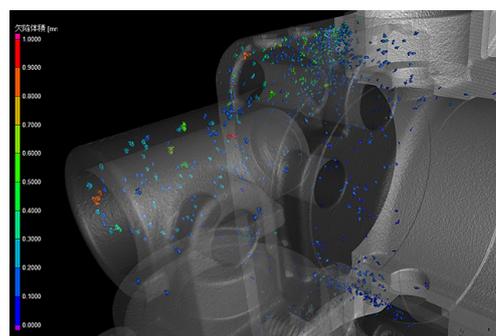
【使用装置：phoenix nanotom m / phoenix v|tome|x c】



事例3) 鋳物の内部欠陥検出

従来、鋳巣やクラックなどの内部欠陥は、切削して確認する必要がありました。CTスキャンでは高価な鋳造品を非破壊で検査することが可能で、鋳造現場の生産効率と品質を大きく改善します。

【使用装置：phoenix v|tome|x c】



## ■ 設備について

1) phoenix nanotom m

保有台数：2台

(2015年6月に1台目、2016年4月に2台目導入)

最大管電圧・出力：180 kV / 15 W

撮影サイズ：φ 240 mm x 250 mm, 3 kg

検出器：フラットパネルディテクタ

限界検出能：200 nm

用途：樹脂やセラミック、生物試料など X線透過度が高いサンプルの内部状態の可視化、内部・外部形状のデータ化など。



2) phoenix v|tome|x c

保有台数：1台

VDI 2630 1.3 / ASTM E 1695 規格適合機種

最大管電圧・出力：450 kV / 1,500 W

撮影サイズ：φ 500 mm x 1,000 mm, 50 kg

検出器：ラインセンサ/フラットパネルディテクタ

限界検出能：100 μm

用途：軽金属製品の内部検査（鋳巣、クラック、ポイド等）、内部寸法の測定、肉厚測定など。



株式会社 JMC 会社概要

- ・社名：株式会社 JMC
- ・HP：<http://www.jmc-rp.co.jp/>
- ・本社所在地：〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-5-5 住友不動産新横浜ビル 1F
- ・代表者：代表取締役社長 渡邊大知
- ・事業内容：3Dプリンター出力事業、鋳造事業、医療モデル受託開発・製作事業、受託測定・CT スキャン事業

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

TEL: 045-477-5757 FAX: 045-471-5270 E-MAIL: [jmcltd@jmc-rp.co.jp](mailto:jmcltd@jmc-rp.co.jp)